

第12回アドバイザー・ボード会合の概要

「アドバイザー・ボード」の第12回会合の日時・出席者、概要等については、以下に示すとおりである。

日 時：2013（平成25）年2月26日（火） 13時00分～15時00分

場 所：神戸大学六甲台本館3階大会議室

出席者：

アドバイザー・ボード委員（五十音順、敬称略）

尾崎 裕，小瀬 昉，北 幸二，鈴木基史，高崎正弘，宮下國生，
宮本又郎，室崎益輝

経営学研究科教員

水谷文俊，國部克彦，鈴木一水，上林憲雄，藤原賢哉，宮原泰之，
松尾博文，松尾貴巳，原 拓志，音川和久，内田 浩史
（高松 肇）

概要

まず、冒頭で、水谷研究科長より、本年度より新たな変更された神戸大学経営学研究科のアドバイザー・ボード委員会に関しての趣旨説明がなされ、経営学研究科・経営学部の現状と今後の方向性について説明があった。経営学研究科・経営学部の目標は、経営学分野における世界の研究教育拠点となることであり、それを前提に、特徴ある大学としてさらに発展させるために取り組むべき重点施策、これまでの実績や課題について説明がなされた。これまでの実績としては、①学部教育に関しては、グローバル人材育成事業が全学レベルで採択され、それを利用しつつ、これまで実施されてきたKIBERプログラムの更なる充実を図ってきたこと、②Ph. D. 教育プログラムでは、大学本部の重点プログラムとして経営学分野における英語による5年一貫博士課程プログラムであるSESAMI (Strategic Entrepreneurship and Sustainability Alliance Management Initiative) プログラムをスタートさせたこと、③研究分野においては平成24年度卓越した大学院拠点形成支援補助に採択（特に優れた17専攻の1つに選定）されたこと、④社会科学系5部局（法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、国際協力研究科、経済経営研究所）が協力し、研究教育を行う社会科学系教育研究府が設立されたこと、などが報告された。重点施策としては、グローバルに対応できる人材の育成、より高い水準の研究力の養成、アジア太平洋地域の大学ネットワークの構築、を推進することが報告された。

以上の概括説明を研究科長がおこなった後、具体的な各論について、次のとおり報告がなされた。

まず第1に、本年度から全学的に取り組むことになるグローバル人材育成事業の内容について、副研究科長である鈴木一水教授から報告があった。神戸大学全体としての取組み、このプログラムにおける経営学部としての設定目標と取組み内容、そして課題について報告がなされた。

続いて、本研究科のグローバル教育の2つの柱である学部教育に関してはKIBERプログラムを、そしてPh. D. 教育に関してはSESAMIプログラムを、その推進責任者である松尾博文教授から説明がなされた。このSESAMIプログラムは、企業活動を創造し、そのオペレーションにお金をまわす仕組みをつくる「創造経営」と経済的に実行可能で、他の企業、環境と地域社会との共生を図るサステナビリティ・アライアンス経営である「共生経営」を2つの柱としている。この2つについてPh. D. レベルでの専門家の育成プログラムであるとの概要説明がなされた。

第3に、来年度で25周年を迎えるMBAプログラムの概要についてMBA教務委員である上林憲雄教授から報告がなされた。MBAプログラムは、これまでのいくつかの改革を経て、完成度の高いプログラムとなってきている。これまでの実績を踏まえた上に、よりグローバル対応が可能となるようにプログラムを発展させていくことにしたいという旨の説明がなされた。

そして報告の最後は、社会科学系5部局が協力して取り組む「社会科学系教育研究府」の活動概要が、松尾貴巳教授より報告された。「社会科学系教育研究府」は、社会科学先端リサーチ・ユニット、産業創生インキュベーション・ユニット、高等アクションリサーチ・ユニットの3つのユニットから構成されており、5つの部局と連携しながら研究を遂行するという説明があった。

これらの報告の後、経営学研究科が取り組んでいる内容に関して、アドバイザー・ボード委員からアドバイスや、出席者による活発な意見交換がなされた。